

桜蔭俳話会 五月句会 (第三四五回)

平成二十八年五月二十二日(日)

鎌倉八幡宮及びその付近で吟行

5点②奉納の絵馬を離るる夏の蝶	明美
4点 鶯舞ふや若宮大路夏きざす	友子
4点 鳩みくじ修学旅行の白帽子	ツル子
4点 夏めくや狛犬に降る紫外線	守
3点①旧美術館涼しさの影そのままに	朋子
3点 揺れ残る栗鼠の小枝や新樹光	守
2点①吟行や風踏みながら汗拭ふ	邦子
2点①峰雲や人力車夫のストレッツ	朋子
2点①水打つて参道ひろくなりけり	秀一
2点 宮まゐり婆の日傘に児のねむる	秀一
2点 段葛若木つらぬき南吹く	秀一
2点 頼朝の海をめざしぬ青嵐	朋子
1点①木の樽に三年醬油若葉風	明美
1点①ふりむける少女の髪に風かをる	邦子
1点①石楠花や江戸町家より人の声	明美
1点①夏蝶のひらりと越ゆる太鼓橋	守
1点 蓮池や若葉映りてゆらぎをり	ヤエ子
1点 若葉して杜の一樹の一果かな	明美
1点 葉桜にお箸が似合ふ鎌倉彫	直子
1点 葉桜や一直線の段葛	ヤエ子
1点 片陰や介護ホームの出入口	守
1点 神籤ひく若き人らの五月かな	秀一
1点 参道の屋台のキュウリ涼を呼び	ツル子
1点 八幡宮の蘇生の公孫樹風薫る	友子
1点 ひこばえや大樹の切株添ひて立ち	ツル子
1点 新緑の奥に小さな籠り堂	明美
1点 夏めく日新夫は捧ぐ玉串を	眞壽
1点 駅頭の自転車組み立て若葉風	ヤエ子
1点 万緑を映す水面や平氏池	友子
1点 蓮池の泰然自若の空広き	幸

※ 松落葉横目で渡る太鼓橋

若葉風神の通り道吹きぬける	かおる
万緑と鳥居の赤の競い合ひ	邦子
ひるがほや先客見ゆる虚子の墓	朋子
葉桜の下歩き来て段葛	邦子
夏来る赤き社にぬかづいて	眞壽

「事務局からお知らせ」

○六月句会

・日時 六月二十六日(日)午後一時から。

・会場 旭区民文化センター(サンハート)

○七月句会

・日時 七月二十四日(日)午後一時から。

・会場 旭区民文化センター(サンハート)

○八月は、句会は休みとなります。

大路より直線にあり夏の海	幸
十葉や古びた門に花咲かす	眞壽
修業僧の網白笠美し夏衣なり	幸
祝婚や舞殿へ薫風抜ける	友子
つつじ咲くお宮参りか八幡で	直子
薫風や燈籠の石鮮しき	かおる
ひいらぎの青き実二つ表具店	幸
若葉風一の鳥居のベビーカー	守
夏の日や龍の迎へたる土産店	かおる
段葛ゆつくり歩く初夏日	直子
萍や囁くやうに鳩の居て	かおる
政子石いく年拝む十葉を	直子
緑蔭やかたちを褒めて鳩サブレー	秀一
新緑や波紋広がる太鼓橋	眞壽
夏つばめ大連縄とひとつ駅	朋子
新樹光白鳩の舞ふ池の上	ヤエ子
鎌倉彫りのぞく老舗の燕子花	ツル子
時空越え大姫政子の夏衣かな	幸
緑濃き天覧野外演習の地	幸
木々茂り弁財天の幟立つ	眞壽
桎落葉禰宜掃く後のまた落葉	ヤエ子
夏蝶のひとやすみする花屋先	友子
本殿に参ひてたたむや日傘かな	邦子
鳥居より九夏入りたる段葛	かおる
薫風に蓮の木葉見ゆ源氏池	直子
(不在投句 古野明美、中村朋子)	